

福井工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	機械工学実験Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0075			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	機械工学実験Ⅱテキスト						
担当教員	亀山 建太郎,村中 貴幸,加藤 寛敬,藤田 克志,芳賀 正和,金田 直人,橋本 賢樹						
到達目標							
(1) 実験テーマを理解し、実験装置を安全に操作して実験データを収集・解析でき、実験に関する課題（問題点等）を発見し解決法を提案できること。 (2) 実験課題の工学的背景および周辺情報を網羅し、機械工学分野での一般的な作成方法に従った報告書を提出期限までに作成できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実験テーマの理解と実施	各実験テーマに関する基礎知識および目的を十分に理解し、実験を主体的に実施することができる。			各実験テーマに関する基礎知識および目的を理解し、実験を実施することができる。		各実験テーマに関する基礎知識および目的を理解しておらず、実験を実施することができない。	
実験レポートの提出	実験レポートの作成法を十分に習得し、発展的なデータの収集解析および考察検討ができる。			実験レポートの作成法を習得し、データの収集解析および考察検討ができる。		実験レポートの作成法を習得しておらず、データの収集解析および考察検討ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 RE1 JABEE JB3 JABEE JE1							
教育方法等							
概要	この科目は、機械工学分野の機械力学、流体力学、熱力学、材料力学、および制御工学の基礎に関する諸テーマについて実験形式で授業を行うものである。実験の計画および方法、現象的的確な把握、実験データの処理、現象の解析方法、実験報告書の書き方を修得する。また、技術者倫理を理解する。 全 5 テーマのうち、「シーケンス制御」は企業で機械設計業務に携わっていた教員がその経験を活かし、制御プロセスにおけるラダー図や配線図について、PLCを用いたシーケンス制御とディスカッションを通じて教授するものである。						
授業の進め方・方法	6〜7人程度の 5 班に分かれ、各テーマ 3 週毎のローテーションにより 5 テーマの実験を行い、報告書を提出する。また、技術者倫理の基本的考え方を学習する。なお、ガイダンスにおいて実験全体の安全教育を行うが、各テーマの実験の最初にも必要に応じて実験上の安全に関する基礎的な知識や技術を解説する。						
注意点	学習・教育目標：本科（準学士課程）：RE1(○)環境生産システム工学プログラム：JB3(○)、JE1(○) 関連科目：機械工学実験Ⅰ(本科 4 年)、生産システム工学実験Ⅰ,Ⅱ(専攻科 1 年) 学習・教育目標 (RE1)の達成および科目取得の評価方法： 実験テーマごとに、実験態度を 20 点、報告書・概要書の評価を 80 点（報告書70点、概要書10点）とする。 報告書の評価の内訳は、報告書の基本的書き方を 10 点、実験データの収集解析を 30 点、考察検討・口頭説明を 30 点とする。報告書の提出が締切を過ぎた場合、報告書の評価に以下の数値を掛けて減点する。締切後 1 週間以内の提出には 0.8、締切後 2 週間以内の提出は 0.6、締切後 4 週間以内の提出は 0.3、締切後 4 週間を越えた提出は 0 とする。 正当な理由なく遅刻した場合は、その実験テーマの評価に対して 5 点の減点を行う。 報告書の提出には、その実験テーマの実験を実施していることが必要である。 病欠等の正当な理由により実験ができなかった場合は、実験担当者の指示を仰ぐこと。 報告書の提出がない実験テーマの評価は 0 点とする。 実施済み実験テーマの報告書未提出が 2 つ以上ある場合は、以後の実験は受けられない。 総合評価は各実験テーマの評価の平均とする。 評価基準：学習・教育目標 (E1)の達成および科目取得の評価基準：全テーマの平均点数が 60 点以上。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 浮力対流 1		シラバス、安全教育を理解できる。液体内に発生する浮力対流の数値解析 1 を説明できる。		
		2週	浮力対流 2		液体内に発生する浮力対流の数値解析 2 を説明できる。		
		3週	浮力対流 3		液体内に発生する浮力対流の数値解析 3 を説明できる。		
		4週	電顕 1		電顕 1 を説明できる。		
		5週	電顕 2		電顕 2 を説明できる。		
		6週	電顕 3		電顕 3 を説明できる。		
		7週	ナックルボール 1		ナックルボールの軌跡の数値シミュレーション 1 を説明できる。		
		8週	ナックルボール 2		ナックルボールの軌跡の数値シミュレーション 2 を説明できる。		
	2ndQ	9週	ナックルボール 3		ナックルボールの軌跡の数値シミュレーション 3 を説明できる。		
		10週	曲げ試験 1		板材の曲げ試験 1 を説明できる。		
		11週	曲げ試験 2		板材の曲げ試験 2 を説明できる。		
		12週	曲げ試験 3		板材の曲げ試験 3 を説明できる。		
		13週	シーケンス制御1		PLCを用いたシーケンス制御 1 を説明できる。		
		14週	シーケンス制御2		PLCを用いたシーケンス制御 2 を説明できる。		

		15週	シーケンス制御3		PLCを用いたシーケンス制御3を説明できる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	
				実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3	
		技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	機械系分野【実験・実習能力】	機械系【実験実習】	実験・実習の目標と心構えを理解し、実践できる。	4	
				災害防止と安全確保のためにすべきことを理解し、実践できる。	4	
				レポートの作成の仕方を理解し、実践できる。	4	
				ノギスの各部の名称、構造、目盛りの読み方、使い方を理解し、計測できる。	4	
				マイクロメータの各部の名称、構造、目盛りの読み方、使い方を理解し、計測できる。	4	
				ダイヤルゲージ、ハイトゲージ、デプスゲージなどの使い方を理解し、計測できる。	4	
				加工学実験、機械力学実験、材料学実験、材料力学実験、熱力学実験、流体力学実験、制御工学実験などを行い、実験の準備、実験装置の操作、実験結果の整理と考察ができる。	3	
				実験の内容をレポートにまとめることができ、口頭でも説明できる。	3	
				評価割合		
		レポート, 概要	実験t態度	合計		
総合評価割合		80	20	100		
基礎的能力		0	0	0		
専門的能力		80	20	100		
分野横断的能力		0	0	0		